

本時のねらい

・「Can」を活用し、自分と友だちの共通点・相違点をベン図にまとめて整理する。その上で、その情報を活用し、英語で詩を作成する。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・Jamboard でベン図を活用し、ペアや班の仲間の考えを可視化する。お互いのできる事、できないことが一目で見れることからベン図を活用した。
- ・他者の Jamboard のページを見て、自分たちの会話の参考にする。本ツールでは、全生徒の情報を生徒が見たい時にいつでも見ることができる。
- ・クラウド上で思考ツールを活用することで、思考を効果的に整理したり、学びを深めたりできる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・PowerPoint
- ・Google (Jamboard)

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (4分)	1. 英語の歌を歌う	・歌に合わせてスライドが流れるようにした mp4 動画を使用することで、歌を楽しみながら、英文を学ぶことができる。
展開 (44分)	2. 英詩の紹介 本時の目標「Can を活用し、詩を作成しよう。」 ・小学校で学習した「私と小鳥と鈴と」の英語版を確認する。 ・上記の詩が、Can を用いて表すことができることを知る。 3. ベン図の用い方について確認する。 ・ベン図を活用することで、共通点と相違点がわかることを体感させる。【写真1】 4. 英語で質問しあいながら、自分たちのできる事・できないことについて確認し、ベン図に表す。【写真2】 ・Jamboard 上のベン図に入力していく。 ・ベン図を見ながら、自分たちのできる事・できないことについて、英語ではどのように表現することができるのか、確認しあう。	・PowerPoint を用いて一緒に英詩を確認する。 ・「私と小鳥と鈴と」の場合を例に挙げ、どのようにベン図を用いて表すことができるのかについて確認する。 ・イラストを、ベン図の適切な箇所に移動させる。 ・わからないときは他の班の Jamboard も見ることができる。 ・同時編集ができるので、考えを集約するのに便利である。
まとめ (2分)	5. ふり返しシートに記入する。 ・単元のルーブリックを確認しながら本時の学びがどうであったかを確認する。【写真3】	

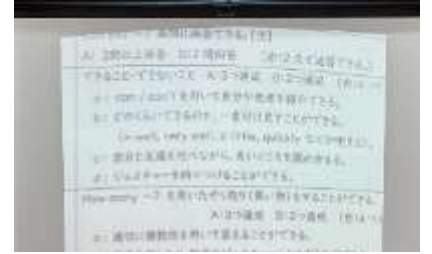
1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真1】本時で使用したベン図 (Jamboard)



【写真2】お互いにインタビューしている場面



【写真3】単元のルーブリック

児童生徒の反応や変容

Jamboard はクラウド上で同期されているため、自分のタブレットを用いてアイコンを動かしても同じ画面を共有することができ、視覚的にわかりやすい。また、英語が苦手な子にとっても英語を書いたりする必要もなく、活動しやすく感じた様子であった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・普段は発表ノートなどを使用しているが、様々なツールに慣れることや、複数の生徒が同時に作業し、それらをお互いに見ることができるメリットを考え、本ツールを活用した。Jamboard とシンキングツールは非常に相性がよい。
- ・帰宅してからも家でその画面を確認しながら詩を作ったり、次の授業では他者のページを見ながら「友達になりきって発表」したりするなどの活動にスムーズに移行することができた。また、デジタルで行っているため生徒がプリントを紛失することがなく、ファイルから探したりする時間を削減できる。それにより、時間を有効活用でき、言語活動に多くの時間を割くことができた。